

造成ヨシ帯に植栽したヤナギの生育状況

太田 豊三

◆背景・目的

湖岸植生の多様化による魚類繁殖育成機能の効果的な付与を検討するため、南湖東岸（草津市下笠地先）の造成ヨシ帯において、水際でホンモロコの産卵が期待される根を持つヤナギの植栽技術開発試験を行い、植栽後の活着状況や生長を追跡した。

◆成果の内容・特徴

平成18年8月8日に、挿枝により沖杭（波よけ構造体）に170本縛り付けられたものが、平成20年10月17日現在では、127本（うち生育「良」なものは約9割：表①と写真1）が生育しており、平成20年の3月以後に枯死・消失したものはなかった。初期に消失または1m以下の生育の悪い植栽ヤナギは、主に水路側と造成ヨシ帯前面の北端に多く分布しており、水位と関係する波浪・水流の向き（強さも含む）により植栽当初に物理的なダメージを受けたことが示唆された（図）。

平成20年11月～12月の調査では、植栽ヤナギ本体の生育に比例してその根の良好な伸張状態が見られ、次季のホンモロコの産卵シーズンにその機能が期待できる形態を示していた（写真2）。

◆成果の活用・留意点

ヤナギの植栽技術をヨシ帯造成手法のなかに組み入れていくために、一に植栽植物体の養生面と管理面に主眼を置いた追跡が必要と考えられる。

表①ヤナギ植栽生育調査結果（平成20年10月17日現在）

生育状況指数とその内容		調査本数	3段階評価
0	生育せず、消失	43	56
1	杭(BSL 1m)以下	13	26
2	小と中の間	7	
3	背丈が120cm以下	19	
4	中と大の間	24	88
5	背丈が200cm以上	64	127
合計		170	170

注) 植栽当時、植え付け本数：170本→1年後発根169本・伸枝162本



写真1 生育良好な植栽ヤナギ



写真2 ヤナギ根の伸張状況

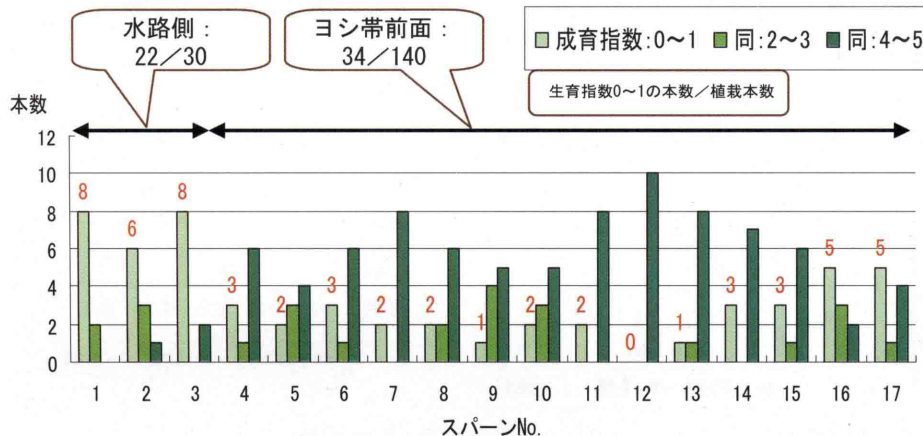


図 生育状況指数と植栽個所との関係（1スパン＝20m）